

核戦争防止

兵庫医師の声

第 104 号 2019 年 8 月号

発行 核戦争を防止する
兵庫県医師の会

〒650-0024
神戸市中央区海岸通 1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル
5 F 兵庫県保険医協会内

電話 078 (393) 1807
振替 01130-6-57830

第 38 回総会を開催

広島・長崎の原爆投下から続く 核開発の歴史を紐解く



記念講演では、高橋博子氏が、日米の公文書から、日米両政府が被害を矮小化し核兵器と原発を推進してきた事実をあぶり出した

核戦争を防止する兵庫県医師の会は 7 月 28 日、保険医協会会議室で第 38 回総会を開催。2018 年度活動報告と新年度の活動方針を確認し、郷地秀夫代表ら運営委員を承認した。

記念講演は名古屋大学大学院法学研究科研究員の高橋博子氏が「米公文書から迫る核兵器・

原発推進体制の闇」と題し講演、61 人が参加した。

高橋氏は米国が広島・長崎への原爆投下後、「原爆の効果によって生じた死傷者の研究」を早速実施し、その研究は米科学アカデミーが管轄する形で、ABCC（原爆傷害調査委員会、現在

○反核医師の声 (2) ○

の放射線影響研究所の前身)によって引き継がれたことを概括。核兵器と原子力発電所の開発は一体となって推進されており、そこには残留放射線や内部被曝など原爆放射能による人体への影響を過小評価する罪深い歴史があったとした。

また、米国が太平洋ビキニ環礁で1954年に行った水爆実験で第五福竜丸はじめ日本のマ

グロ船乗組員が被曝した「ビキニ事件」で、米側が日本側に「見舞金」200万ドルを支払う「政治決着」に関して、大規模な戦犯の釈放を取引材料にしていたことを、日本の公文書の開示で明らかにしたとし、核開発の中でさらなる被ばく者を生み出した日米政府の責任を問うた。

(3～6面に2018年度活動報告と2019年度活動方針、運営委員一覧を掲載)

新年度会費 ご入金のお願ひ

本紙に振込用紙を同封しています。秋の全国反核医師のつどいやさまざまな企画開催等、反核医師の会の活動は、皆さまの会費で成り立っています。新年度会費(¥5000)のお振り込みをよろしくお願いいたします。

締切を延長
しました!

—京都からアジアへ、そして世界へ 核兵器も原発もICAN—

第30回反核医師のつどい in 京都

日時 9月14日(土)・15日(日) 会場 メルパルク京都(JR京都駅から徒歩すぐ)
参加費 医師・歯科医師5000円、医療関係者2000円、医・歯学生1000円

1日目

- 14:00～ 全体会
- 14:05～ 記念講演「核兵器禁止条約とトランプの核政策」
黒澤満・大阪女学院大学教授
- 15:15～ 活動紹介 平信行(京都「被爆2世・3世の会」世話人代表)
平野治和(光陽生協クリニック)
- 15:50～ 特別シンポジウム「金融機関の核兵器製造企業への融資を止めさせよう」
講演①「Don't Bank on the Bombについて」
スージー・スナイダー・PAX核軍縮プログラム・マネジャー
講演②「クラスター爆弾廃絶における金融機関への働きかけの意義」
目加田説子・中央大学総合政策学部教授
- 18:30～ レセプション

2日目

- 9:30～ 特別講演「私が大飯原発を止めた理由」
樋口英明・元福井地裁裁判長
- 10:40～ 講演「北東アジア非核化のために私たちにできること」
中村桂子・長崎大学“RECNA”准教授
- 12:10～ まとめの全体会
- 12:30 終了 13:00～ オプション企画

※同封の案内チラシで8月末までにお申し込みください。9月以降のお申し込みは、兵庫県保険医協会事務局Tel078-393-1807までお問い合わせください。

核戦争を防止する兵庫県医師の会

2018 年度活動報告と 2019 年度活動方針

(1) 本会は、設立総会開催(1982年7月)から37年を迎えました。

設立以来、医師歯科医師の団体として、非核・反核運動に取り組んできました。諸活動としては、会報「医師の声」の発行、反核パネルや反核リーフレットの製作・普及、反核平和映画の製作協力や貸し出し、被爆者の会への援助、各地の医師の会との交流、IPPNW(核戦争防止国際医師会議)の世界大会と地域会議への代表派遣、県内の反核平和団体との協力などを行ってきました。また、本会独自の反核展の開催などを通じ、核兵器廃絶を願う草の根の団体として患者・県民に医師の立場からの働きかけを行うなど、継続して活動してきました。結成当時198人であった会員数は、86年には500人を超えましたが、高齢・病気等による会員の退会などで、現在221人となっています。

(2) 2018 年度の活動

- ①第37回総会は、兵庫県保険医協会主催の市民講演会「憲法9条は世界遺産 “保守本流” 古賀誠さんが語る不戦と平和の誓い」(7/22)を記念講演会とし、200人が参加しました。
- ②2018年原水爆禁止世界大会に歯科医師・医療スタッフら5人が参加、平和行進に県下各地で5人が参加するなど、県下の様々な平和運動との協力・共同を行いました。
- ③モンゴル・ウランバートルで開催された第10回IPPNW北アジア地域会議(9/13.14)に代表を派遣しました。
- ④「第30回核戦争に反対し核兵器廃絶を求める医師・医学者のつどい in 長崎」(11/3~4)に5人が参加しました。
- ⑤近畿反核医師懇談会の核兵器廃絶を求める外



第37回総会で記念講演した
自民党元幹事長の古賀誠氏

務省交渉(11/23)、第21回懇談会(講演「北朝鮮・核ミサイル報道をファクトチェックする」

講師 ジャーナリスト・立岩陽一郎氏、2/25)に参加しました。

⑥第15回反核医師の会全国大会(6/8、記念講演「2020年・被曝75年 核兵器のない世界をめざして」講師：安井正和・日本原水爆禁止協議会事務局長)に参加しました。

⑦原爆症認定集団訴訟では、引き続き事務所・連絡先を引き受けるなど、支援ネットワークに協力し積極的役割を果たしました。郷地秀夫代表が裁判所への証人として協力しました。

⑧米国のINF離脱表明に抗議声明を発表しました。

⑨非核「神戸」方式43周年記念集会(3/18)に参加しました。

⑩非核の政府を求める兵庫の会にも引き続き協力し、市民学習会「元プロ野球選手・張本勲の姉が語る被爆の実相と核兵器廃絶の願い」(9/8 講師：被爆者、張本勲の姉 小林愛子氏)、「日本はなぜ核の傘から抜け出せないのか」

(11/16 講師：共同通信論説委員 大田克昌氏)、「核兵器と原発日本が抱える「核」のジレ

○反核医師の声 (4) ○

ンマ」(2/9 総会記念講演 講師：長崎大学核兵器廃絶研究センター・センター長 鈴木達治郎氏)、「原発、オリンピック、改憲国民投票 巨大広告企業の利権とプロパガンダ」(3/22 講師：作家 本間龍氏)、「日本人医師が見たイスラエル占領下のパレスチナの現状」(5/18 講師：北海道パレスチナ医療奉仕団団長 猫塚義夫氏、室蘭工業大学大学院工学研究科准教授 清末愛砂氏)が開催されました。郷地代表、小泉運営委員が、常任世話人を務めています。

⑪九条の会兵庫県医師の会の「沖縄スパイ戦史上映&三上智恵監督トーク」(2/17、参加 200 人)を共催するなど、平和憲法を守る運動に積極的に取り組みました。

⑫ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名、安倍 9 条改憲 NO！憲法を活かす全国統一署名に取り組みました。

⑬兵庫民医連主催の福島原発事故の避難者検診に協力しました。

(3) 情勢

2018 年夏、広島（8 月 6 日）、長崎（8 月 9 日）は 73 回目の原爆の日を迎え、平和式典での平和宣言では、「核兵器禁止条約を核兵器のない世界への一里塚とするための取り組みを進めていただきたい」（松井一実・広島市長）、「核兵器禁止条約が一日も早く発効するよう、自分の国の政府と国会に条約の署名と批准を求めてください」（田上富久・長崎市長）と、両市長とも核兵器禁止条約への日本の参加を求めるなど、被爆地の核兵器廃絶に対する今日的な立場と認識を内外にしめしました。他方、安倍晋三首相は両市でのあいさつで、核兵器禁止条約に一言も言及しませんでした。核兵器廃絶を求める世界の動きに逆行する姿勢であると同時に、広島・長崎市長が求めた日本政府の政策転換を、事実上拒否するものす。

核兵器禁止条約は、50 カ国が批准して 90 日後に発効します。2019 年 7 月現在で 70 カ国が

署名、23 カ国が批准しています。日本政府に同条約への調印・批准を求める意見書決議は 400 自治体を超え、「ヒバクシャ国際署名」にも 20 都道府県・1,135 市町村の首長が署名しています。唯一の戦争被爆国として日本政府は早急に同条約への署名・批准を行うべきです。

核兵器禁止条約成立に向けて多大な貢献をした核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）は、核兵器製造企業への融資禁止を求めて「核兵器にお金を貸すな（Don't Bank on the Bomb）」プロジェクトに取り組んでいます。その成果として、りそなホールディングスが国内銀行として初めて、核兵器製造企業への融資を禁止する宣言をしました。核兵器製造を用途とする融資のみならず、核兵器製造に関わっている企業に融資しないという方針です。りそなに続いて日本をはじめ世界の金融機関が核兵器製造企業への融資を禁止することが求められています。

2019 年 2 月 27 日・28 日にベトナムで開催された 2 回目の米朝首脳会談では、非核化をめぐる合意文書は調印されなかったですが、今後も両政府は「協議を続けていく」とされました。

6 月 30 日に板門店での 3 度目の会談は、2018 年 6 月 12 日の初の米朝首脳会談での共同声明の合意（新しい米朝関係の確立、朝鮮半島の平和体制の構築、朝鮮半島の完全な非核化）を具体化する契機となりました。北朝鮮の隣国であり憲法 9 条をもつ日本政府は、「日朝平壤宣言」にもとづき、侵略戦争の反省など過去の清算、拉致問題を含む日朝両国間の諸問題の包括的解決、国交正常化のために尽力するとともに、米朝合意の誠実な履行、今後の対話推進のために積極的な役割を果たすべきです。

米国が 2 月に未臨界核実験を行いました。米国の未臨界核実験は、核不拡散条約（NPT）第 6 条に明記されている核軍縮義務に反しており、核兵器禁止条約の早期発効を求める国際社会の流れに対する重大な挑戦であります。また、

○反核医師の声 (5) ○

北朝鮮に対し核兵器、核開発の放棄を求める一方で、米国が「使える核兵器」を開発するために核実験を強行するのはダブルスタンダードであり、朝鮮半島の非核化をめざす今後の交渉にも悪影響を与えるものであります。

にもかかわらず、日本政府は米国の核実験に抗議せず、「包括的核実験禁止条約（C T B T）」で禁止されている核爆発を伴うものではない」と問題視しなかったことは重大です。

2018年10月20日にトランプ米大統領が中距離核戦力（I N F）全廃条約から離脱を表明しました。ロシアが巡航ミサイルの実験を行うなど、I N F条約に違反していることを理由にしています。国連のグテレス事務総長は2月25日、ジュネーブ軍縮会議の演説で、米露に対しI N F全廃条約を維持するとともに、核軍縮を定めた新戦略兵器削減条約（新S T A R T）を2021年の期限切れ前に更新するよう求め、I N Fが失効すれば世界はより危険で不安定になると警告し、新S T A R Tについては米露2国間の取り決めを多国間のものとなるよう希望を述べました。

トランプ政権の「核態勢の見直し（N P R）」で水上艦に搭載する巡航ミサイル開発方針が示され、日本の港湾への核兵器持ち込みの危険が拡大する中、45周年を迎える非核「神戸方式」の意義が大きくなっています。但馬地域での米軍オスプレイ低空飛行訓練の危険が広がる中で、兵庫県が非核宣言にとどまらず非核・平和行政の実施・充実をはかることが求められます。

安倍首相は「新しい憲法の2020年施行」を目標にしています。最大の狙いは9条2項の空文化＝死文化による、海外での無制限の武力行使、「戦争する国」づくりです。「いずも」

「かが」の空母化、米国からF35戦闘機105機、イージスアショアの「爆買い」をトランプ大統領と約束するなど、軍事費が7年連続で前年度を上回り、5年連続で過去最高額を更新す



沖縄県民投票で、街頭で「新基地建設のための埋め立て反対に○」を訴えた会員ら

る5兆2574億円にのぼり、軍事費の「借金」である後年度負担も2019年度概算要求で5兆3000億円と単年度の軍事費以上となり、社会保障など民生予算がいつそう圧迫される事態が生まれています。

沖縄県知事選挙が翁長雄志知事の急逝により、2018年9月30日に投開票されました。辺野古新基地建設を最大の争点とし、新基地建設反対を明確に訴えた、翁長雄志前知事の後継者で野党が支援する玉城デニー氏が39万6632票を獲得し、安倍政権が推した佐喜真淳・前宜野湾市長に約8万票の大差をつけて勝利しました。

知事選挙での新基地建設反対派の勝利に引き続き、米軍の新基地建設をめぐる、名護市辺野古沿岸部の埋め立ての是非を問う県民投票が2019年2月24日投開票され、「反対」が72%の42万4273票と圧倒的多数を占めました。あらためて「米軍新基地反対」の圧倒的民意が示されました。4月21日の衆議院沖縄3区補欠選挙でも、辺野古新基地建設に反対する野党統一候補の屋良朝博氏が圧勝し、あらゆる手段と策を弄して工事を強行してきた安倍政権の姿勢が、あらためて問われる事態となりました。ところが安倍首相は現在も新基地建設に固執しています。

広島・長崎の被爆者の多くを原爆症と認めない国の姿勢に対して、全国で多くの被爆者が原爆症認定を求めて「ノーモア・ヒバクシャ訴訟」

○反核医師の声 (6) ○

を闘っています。全面的な解決に向けての取り組みが引き続き課題となっています。

平和を願う国民の思いを無視し、民主主義と立憲主義をないがしろにする安倍政権に対抗する運動をいっそう強めましょう。

(4)2018年度の重点課題

①交戦国の核攻撃を受けた唯一の被爆国の医師として、また、人命を守る医師の社会的責務を自覚し、医師らしい創意ある活動を進めます。

②被爆者との交流と援助活動を進めます。特に被爆者医療の取り組みを重視し、放射線に正しい知見を持つ医師の養成に努めます。ノーモア・ヒバクシャ訴訟と福島原発事故被災者への健診活動を支援します。

③核実験に反対し、核兵器廃絶を求める国際的世論と共同し、運動していきます。

④核兵器禁止条約への日本政府の参加を求める自治体請願に取り組みます。

⑤国民の命と健康を脅かす原発に反対する運動を進めます。安倍政権の再稼働推進政策に対抗し、すべての原発を廃炉とするよう求めて行きます。

⑥講演会の開催など、医師の会として運動を社会的にアピールする取り組みを進めます。特に医療関係者と次世代への「語り継ぎ」を課題に、医学生などへの働きかけや市民向けの企画も随時開催していきます。

⑦2019年に開催される「第31回核戦争に反対し核兵器廃絶を求める医師・医学者のつどい in 京都」の実行委員会に加わり、成功に協力します。

⑧保団連が開催する視察会、交流会に参加します。

⑨2019原水爆禁止世界大会、国民平和大行進への参加を呼びかけます。

⑩非核の政府を求める会・非核神戸方式記念集会実行委員会など県下の反核諸団体との交流・協力を一層強め、これらの団体の取り組みの成功にも協力します。

⑪九条の会兵庫県医師の会と協力し、平和憲法を守る運動に積極的に取り組みます。

⑫会報「医師の声」の定期発行と、学習・講師派遣活動、反核DVDや原爆パネルの貸し出しなどを積極的に進めます。

⑬会員を増やすため引き続き加入を呼びかけます。

■核戦争を防止する兵庫県医師の会運営委員

代 表	郷地 秀夫	委 員	田中 孝明	委 員	柳井 映二
運営委員長	加藤 擁一	〃	近重 民雄	〃	足立 了平
委 員	池本 恒彦	〃	桃原 久枝	〃	佐々木 徹
〃	井村 春樹	〃	松岡 泰夫	〃	檜林 義雄
〃	木原 章雄	〃	坂口 智計	〃	大森 昭輝
〃	小泉 勇	〃	高原 周治	〃	大澤 芳清(新)
〃	幸原 久	〃	西山 裕康	〃	口分田 真(新)
〃	水間 美宏	〃	宮崎 義彦	〃	多田 和彦(新)
〃	川西 敏雄	〃	宮武 博明	〃	山本 繁(新)
〃	武村 義人	〃	森 達哉		

保団連近畿ブロック・近畿反核医師懇談会市民公開講演会

市民の声が奮闘する記者を励ます

全国反核医師のつどいプレ企画として開催



菅官房長官ら政権へ鋭い追及を続ける東京新聞記者の望月衣塑子氏が
権力とメディアの関係などについて語った

保団連近畿ブロック会議は7月21日、近畿の反核医師の会や民医連で構成する近畿反核医師懇談会とともに「第30回核戦争に反対し核兵器の廃絶を求める医師・医学者つどい in 京都」のプレ企画として大阪市内のM&Dホールで市民公開講演会「民主主義とは何かー権力対メディア」を開催した。講師は東京新聞社会部記者の望月衣塑子氏が務め、近畿一円から医師・歯科医師、市民ら227人が参加した。

望月氏は、今井尚哉内閣総理大臣筆頭秘書官や官邸報道室の主導で、菅官房長官記者会見での質問制限や妨害が始まり、望月氏の質問を「事実に基づかない」などとする抗議文を記者クラブに貼り出すことまで行ったと紹介。政府に批判的なコメンテーターやキャスターの報道番組からの排除など、政府が有形無形の圧力をマスコミにかけていると告発した。そして、こうし

た政府の圧力に対し、マスコミ関係者だけでなく市民も連帯して声を上げることが必要だと訴えた。

また、自身が政治に目覚めたきっかけとして「日本の武器輸出」をテーマに大手防衛企業や防衛官僚からの妨害を受けながら取材したことを挙げ、米国とともに戦争できる国を目指しているのかと問いかけた。

メディアのあり方について、「報道の自由度ランキング」で日本は鳩山政権時代には世界11位だったが、安倍政権の下で67位まで順位を落としていると指摘。イギリスの作家であるジョージ・オーウェルの「ジャーナリズムとは報じられたくないことを報じることだ。それ以外のものは広報にすぎない」という言葉を紹介し、メディアの役割は権力を監視し戦争をさせないことだと結んだ。

2019年国民平和行進

歩いてつなく“核廃絶”の思い

8月広島、長崎へ



明石市内を行進した櫻林義雄先生(左2人目、同日には、松藤任司先生も参加した)

明石

8月の広島原爆忌に向け東京を出発した「国民平和行進2019」が兵庫県内を行進した。兵庫県反核医師の会の呼びかけに応じ、会員ら12人とスタッフが参加し、核廃絶の必要性をアピールした。今年で62回目となる「国民平和行進」は核兵器禁止条約の批准を日本政府に求めている。



須磨 須磨浦公園へ到着した加藤擁一先生

須磨



伊丹 伊丹市役所前であいさつする小泉勇先生

伊丹

7月7日 宝塚
窪高志先生が行進

5月6日 東京から



長田 長田区を行進した松岡泰夫先生

長田



東灘 阪神御影駅前広場で休憩する水間美宏先生(中央)

東灘



灘 石屋川公園を出発する村上正治先生(中央)と川西敏雄先生(右)

灘



県庁 県庁前で折り鶴でできたPEACEの旗を持つ武村義人先生(前列中央)

県庁



神戸市役所 灘区から歩いてきた川西先生が、幸田雄策先生(中央)、桃原久枝先生(左端)と神戸市役所前で合流

神戸市役所

